

博士課程後期での私の体験

2013年博士修了（都市・建築学専攻）

松川 和人

発表の内容

- 博士進学まで
- 博士課程での生活
- 東北大でよかった！

上記の内容を、私の体験談（N=1）
を中心にお話しします。

内容に入る前に ～自己紹介～

宮城県生まれ

2008年 東北大学 卒業

2010年 東北大学 博士課程前期修了 修士 (工学)

2013年 東北大学 博士課程後期修了 博士 (工学)

学部：建築・社会環境工学科

大学院：都市・建築学専攻

指導教員：学部～博士まで前田匡樹先生

専門分野：鉄筋コンクリート構造の耐震工学

博士進学まで

Q. なぜ博士課程に進学したのか？

A. 研究が好きだったから，研究を仕事にしたかったから。

・・・嘘ではないが，それだけで博士進学をしたわけではなかった。

M1終わり頃の私の進路イメージ

M2春頃の私



企業に就職したいな

博士課程進学も
悪くないな



M1終わりころから
就職活動へ

就職活動
失敗！！



主因は私が就職活動を舐めていて，
様々な準備を怠ったこと

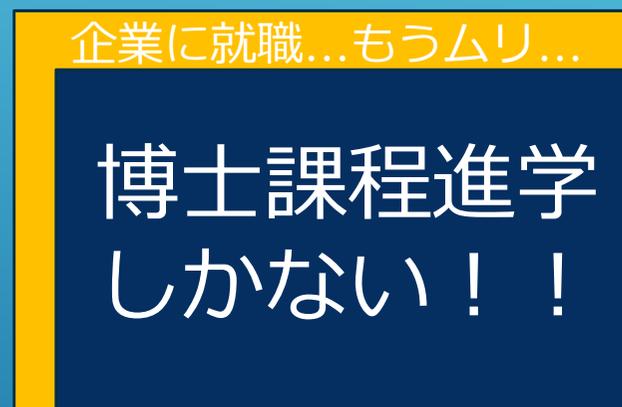
博士進学まで

M2春：慌てて両親や前田先生と相談

M1終わり頃の私の進路イメージ



この頃の私の進路イメージ



→博士進学を目指すことに決める

M2夏：大学院入試を受験→合格

心構え・事前準備で相当な遅れを取っているのだが、まだ気づいていない...

博士課程での生活

ガクシン（学振）・・・？

DC1：博士進学決定がだいぶ遅かったので申請できず

（そもそも学振の存在すら認識していなかった）

DC2：存在は認識していたが、申請せず

申請書類、書くこと
多くて大変...

こんなに大変な書類書いて、
採択率は約20%！？

だったら申請せず
研究進めるわ。。。

授業料・生活費は親から
+ 日本学生支援機構の奨学
金で賄う（奨学金は後に全額免除に）

いま思うとあり得ない態度だが、当時はこのように判断した。

博士課程での生活

特に心構えの面で遅れた状態から博士課程がスタート



たくさんの方からの支援を受けながら，研究を進める。



都市・建築学専攻の先生方
様々な場面で気にかけて頂く



東北大学・工学研究科
RA, チューターなどでの金銭面のサポート
などなど



優秀な後輩・留学生の皆さんなど
一緒に実験をしたり，真剣に議論をしたり

指導教員：前田匡樹先生

学会での発表の機会
国のプロジェクトへの参加の機会
かゆいところに手が届く研究指導
留学生・国内外の研究者等との交流の機会
etc.



博士課程での生活

平日の平均的なスケジュール

7:00 起床

8:30 研究室に着く（八木山から車通学）

～研究～

12:00 昼食（学食など）

～研究～

18:00 夕食（エスパース、一風堂、など）

～研究～

21:00～24:00 研究室退室

25:00までに 就寝

進捗報告の前は徹夜したこともしばしば...
でも、キツくてやめたいと思ったことは一回も無かった

博士課程での生活



牛越橋下での芋煮会



建築実験所でのBBQ

長い博士課程での
生活の合間には息
抜きも大事



実験打ち上げ



ソフトボール大会

博士課程での生活

進学前に持っていた不安と進学後の実際

不安

①同級生の多くは修士卒で企業に就職する。あまり一般的ではない人生を歩むことに対する不安は正直あった。

②学位取れるのか？

③就職できるのか？

実際

①それまでは単に「先生」だと思っていた周りの教員が、みな自分にとってのロールモデルとなり、不安はなくなった。

②自身の最大限の-effortを投入するしかないが、様々なサポートを頂き、なんとかなった。

③(分野や社会情勢によるのかもしれないが)工学系は大学だけでなく高専や企業研究所なども選択肢に入ってきてやすいので、割となんとかなっていると進学後に知り、不安はなくなった(実際になんとかあった)。

博士進学後は、とにかく頑張れば何とかかなりそう！と思えた。

博士課程での生活

博士課程で感じたこと

- 博士課程の学生は「**学生**」と「**研究者（の卵）**」の2つの側面があり、周囲からの見られ方や扱われ方に特徴がある。

学生の特権としての自由

→ある

求められる仕事の質・量

→修士以前より高くなる

→が、**いい仕事をした場合の評価が自分についてくる**（指導教員に、ではなく）

博士課程での生活



このような特殊な機会は、「**研究者（の卵）**」の性質があったからこそ得られたもの。

（前田先生，都市・建築学専攻の先生方：ありがとうございました！！）。

博士課程での生活

博士課程で感じたこと（醍醐味）

- 博士課程での自分自身の研究によって分野の中の未開の地を切り開いているかのような高揚感があった。



当時最先端の架構実験

東北大でよかった！

- 先生方が教育熱心で，先輩・後輩が優秀
- 研究に集中できる環境
 - 様々なサポートが充実
 - 青葉山は都会と違って落ち着いていて，没頭しやすい。
 - 不便では全くなく，東北地方の最大都市である仙台市に立地
 - 日本の他の研究拠点（東京・筑波など）と適度な距離にあり，共同研究しやすい。
 - 私が博士のときは米Purdue大の先生・学生や，UCバークレーの先生らと活動・交流する機会もあるなど，海外と行き来するにも不便でない。

博士課程で得たスキルは、自分の業務のさまざまな面で生かされている。
 BangladeshでのODAプロジェクトにおいて、実験機材を日本で調達し、
 現地に輸出して、現地で実験するプロジェクトを実施。
 研究だけでなく英語、国際経験、さまざまなメタスキルが活躍。



おわりに

- あくまでN=1の感想に過ぎないかもしれないが、私のようにマイナス(?)からスタートした学生でも、充実した日々を過ごすことができた。
- それは東北大の様々な意味でのリソースによって実現できたことであり、大変感謝している。
- いまM1に戻れるとして、博士課程後期に進学するであろうか・・・?
⇒YES!